一般質問

窓口の改善と橋梁の安全性



なかにし　はじめ
中西　肇
議員

一括質問

動画でチェック

◆市役所窓口の改善について

Q 「ふれあい」「あんしん」などを冠した組織や窓口があるが、抽象的で業務内容が分かりにくい。今後、組織や窓口の名称の見直しや組織改編の考えはあるのか。

A 窓口の業務内容を分かりやすく伝えるために、案内表示、総合案内の充実に努める。組織の改編や名称の変更は、今後の研究課題である。

Q 総合案内及び窓口強化について、今後の推進策を伺う。

A 窓口一元化やワンストップサービス実現には、対応する職員が複数の業務、制度を熟知することが一番の課題である。

お見送りデスクや外国人サポートデスクなどから段階的に窓口一元化を進めてきた。今後は、総合案内の工夫や総合的な窓口一元化に向けて課題を整理しながら検討を進める。



◆橋梁の安全点検について

Q 橋梁の現状及び点検状況、今後の対応方針について伺う。

A 小松市が管理する橋梁は473橋。架設時期が明らかな橋梁のうち、建設後50年を経過する橋梁は41%を占めている。平成27年度から定期点検を実施しており、橋梁長寿命化修繕計画に基づき予防保全に取り組んでいる。今後も、橋梁の長寿命化を図り、道路交通の安全・安心を確保し、効果的な維持管理に努める。

Q 小野町橋の通行規制の経過と今後の対応について伺う。

A 令和7年度の定期点検で、小野町橋の橋脚上流側の水中部に損傷を確認。上流側の荷重を緩和するための予防的な安全措置として、片側交互通行及び大型車両の徐行規制を実施。通行規制期間中は、パトロールの実施、24時間監視カメラの設置により橋梁の変状を確認している。現在、対策工事の実施設計等を進めており、年度内に対策工事を完成させ、早期の通行規制解除を目指している。

記録的豪雨を想定した複合災害



うめだ　としかず
梅田　利和
議員

一括質問

動画でチェック

◆記録的豪雨を想定した複合災害

Q 小松市の防災体制・事前対策について。

A 本市の地域防災計画では、同時または連続して2つ以上の災害が発生し、それらの影響が複合化することを想定し、予防対策、応急対策、復旧対策について定めている。現在、石橋川排水区の導水路工事などの整備は計画的に進めているが、既存の水路の大半は、今回の8月27日の大雨の雨量をスムーズに流せる整備はできていないのが現状である。大雨の際には、浸水しやすい箇所を中心にパトロールし、必要に応じて通行止め措置などを行っている。ポンプ場などの重要施設の機能維持に関しては、自家発電機を備えている。今後とも複合化する災害に備えて、関係機関との連携強化や実践的な訓練の実施などを通じて、対応のレベルを高めていきたい。

Q 地域防災力・避難所の機能強化について。

A 町内会が地域の公民館などを事前に届出避難所として登録し、発災時には地域で活用していただくことで、町内会と市において、避難状況や支援の要請の情報を緊密に共有することができると考えている。避難所の機能強化については、指定避難所は2万1,000人を収容できる体制を確保しており、2万2,000人分の食料1食分と飲料水1日分の備蓄を確保している。また、マンホールトイレ、携帯簡易トイレ、災害協定による民間事業者のトイレカーなどを組み合わせて活用し、衛生的な環境の確保に努める。

Q 災害後の生活再建について。

A 令和6年能登半島地震や令和4年8月大雨の際、部局横断でチームを編成し、迅速な対応を行った。この体制は非常に有効であったと捉えており、市域で大規模災害が発生した場合には、この経験を生かして相談や手続を一元化する被災者向けの窓口を設置し、被災者に寄り添った生活再建、支援を行っていく。

一般質問

小松市の財産である「小松空港」を守り抜くために



吉本 慎太郎（よしもと しんたろう）議員

一括質問

動画でチェック

◆10月から運用される冬ダイヤにおいて、小松―羽田便が2往復減。1日6往復となり、わずか4年で半減となった。小松市の財産である「小松空港」はかつてない危機を迎えている

Q 小松市が率先して「空港が面白い」と思わせる仕掛けづくり、来場者増加のための集客展開を図るべき。

A 物産展やイベントの開催などが行われている。空港利用者に限らず、多くの皆様が小松空港を訪れ、楽しい、面白いと思えるような空港周辺エリアの一体整備を官民が緊密に連携し、推進していきたい。

Q 愛称を一般公募しては。小松空港及び小松市を表現する愛称の命名は知名度の向上、発信力の強化、地域愛の醸成につながるのではないか。

A 地域が誇れる最適な名称であると考えており、愛称を提案する考えはない。

Q 空港周辺エリアの開発進捗状況は。

A エアターミナルビルにおける基本構想の策定や、安宅新産業団地への進出企業の事業所建設など、小松空港シン都心整備が進んでいる。民設民営のアリーナ構想は、建設が断念されて以来、土地利用が停滞しているが、集客に資する施設が必要だと思う。防災庁の地方拠点の誘致については、国や県に対する要望活動を続けている。



空港そのものの魅力度アップが必要

◆8月27日の大雨を「体感」して

Q 車水没事案に遭遇し、交通誘導する中で、短時間豪雨への対応の脆さを感じた。これまでの経験則を生かし、各校下・各地区の冠水ポイントに、危険を感知・発信する装置を設置していくべきではないか。

A 現在、市内4か所の高架下アンダーなどに、浸水を感知した場合に発光するポールを設置している。今回、車両が立ち往生した箇所も含め、道路冠水ポイントにこのポールを増設し、対策を講じていきたい。

梯川水系緊急治水対策プロジェクトの進捗



片山 瞬次郎（かたやま しゅんじろう）議員

一括質問

動画でチェック

◆梯川水系緊急治水対策の進捗

Q 進捗状況と計画との差異は。

A 国と県と常に情報共有を図っており、令和13年度整備完了に向け順調に進んでいる。

Q 内水氾濫への治水効果は。

A 九竜橋川排水機場のポンプ増強工事により、排水能力が約1.5倍増強され、九竜橋川周辺の浸水被害が軽減された。

また、石橋川排水区では、導水路工事が全長660mのうち559mが完成し、遊水地整備に伴う用地取得もおおむね90%が完了した。

◆中京圏・関西圏からの鉄道アクセス向上

Q 観光客の利便性のためにも、特急列車がIRいしかわへ乗り入れする可能性はないか。また、市長の思いは。

A 特急列車の乗り入れについては聞いていないが、新幹線の敦賀延伸により、中京・関西圏とのアクセスに支障が生じている現状には危惧している。

◆ふるさと応援寄附金と企業版ふるさと納税について

Q 現時点での状況は。

A 令和7年度はポータルサイトを追加し、返礼品を557品目追加（年度末時点1,286品目）。

Q 返礼品の品名増加と手応えは。

A 一定の手応えは感じているが、目標水準「令和8年度7億円」にはまだ乖離がある。

Q 企業版ふるさと納税の現状は。

A 令和7年度は30件5,340万円と前年より約2,000万円増となった。

現行制度は令和9年度末までの特例措置と定められている。

◆学校体育館（避難所に供する）の空調設備計画と財政的対応

Q 学校の統廃合と本整備プランの考え方は。

A 学校再編に向けた構想づくりは進めるものの、全小中学校・義務教育学校の体育館を令和9年度から5か年を基本に集中的に整備していく。

Q 財政的な対応への考え方は。

A 防衛省補助のほか、文部科学省補助や緊急防災・減災事業債など、必要な財源の確保に取り組む。

動画はQRコードからどうぞ

一般質問

地震や豪雨などからの災害に強いまちづくりについて



橋本（はしもと） 米子（よねこ）
議員

一括質問

動画でチェック

◆住民の不安に対応できる自治体づくりについて

Q 災害対策には市の職員が必要だが、行政改革で民間委託が進んでいる。一般行政職員の充足率は。

A 職員定数518人に対し、充足率は75.9％。有事の際に幅広い業務を担う正規職員が必要であり、適正な人員確保に努める。

Q 消防職員の充足率は。

A 職員定数140人に対し、充足率は96.4％。

Q 指定避難所53か所の空調設備設置率と今後の計画は。

A 整備されているのは9か所で、設置率は17%。令和9年度から5年間を基本として、全市立小中学校・義務教育学校の体育館空調整備を集中的に進める考えである。

Q 上水道管路の耐震化率と向上策は。

A 令和7年度末時点の耐震化率は、基幹管路で34%、その他管路で94%。基幹管路の耐震化を重点的に進めるため、今後10年間の整備計画を策定し、国の補助事業を活用して計画的に実施していく。

◆小松市民病院事業について

Q 新病院の建て替えが議論されている。新病院の病床数の規模はどのようになるのか。

A 基本計画では、一般248床、感染症4床、結核6床の計258床。

Q 市民病院には数年前まで精神病床が26床あった。新病院で廃止する理由は。

A 患者数の減少、派遣常勤医師の削減により、令和元年10月から休止している。南加賀医療圏の他の病院で入院需要を十分に確保できていることなどから、新病院には精神病床を整備しない方針。

◆小松市平和施策について

Q 小松市は非核平和小松市宣言を行っている。国に非核三原則の堅持を求めていただきたいと思うが、市長の考えは。

A 戦争がもたらした悲劇と平和の尊さを次世代へ確実に伝えていくことが大切であり、私自身も恒久的な世界平和の実現を強く望んでいる。



国に非核三原則の堅持を求めていただきたい

町内会DXとデジタル防災で地域課題の解決を



吉柴（よしば） 文悟（ぶんご）
議員

一問一答

動画でチェック

◆デジタル防災の備え

Q 危険な状況下で市民がスマホ等で防災情報を確認する場合、設定が簡単で即座に導入できる市推奨のツールは何か。

A 「こまつ防災アプリ」を提供している。複数のツールを活用するとともに、平時からアプリや公式LINE等を登録し、いざという時に情報を受け取れる備えが重要である。



いざという時に備えてスマホで防災情報

◆町内会負担の軽減

Q 町内会の班長が行うチラシ等の仕分け・配布の負担を減らすため、デジタル閲覧希望世帯にはPDFや閲覧リンクを提供できないか。

A 町内会で各世帯の意向を確認した上で、配布物のデジタルデータ化やリンク先の提供は可能。紙の削減については、ペーパーレスの観点から関係各課と協議して進めていきたい。

◆外部CDOとDX推進

Q 生成AIの進展を踏まえ、行政ツールの内製化などDXを迅速に進めるため、外部CDOなど専門的な知見を持つ人材を活用すべき。

A CDO設置の予定はないが、職員研修や庁内連携を進め、デジタルに強い職員の提案を取り込みながら、市役所全体のDX体制を強化していく。

◆小松大学再編と専門学校

Q 若い世代が小松で学び、定着するよう、公立小松大学の学部の再編や、専門学校等の誘致など、学びの選択肢と受け皿を拡充せよ。

A 18歳人口の減少を踏まえると、専門学校の進出は非常に難しいと考える。一方、地域や時代のニーズに応える人材育成は重要であり、公立小松大学では、既存学部の枠組みの中で、時代に即した教育の充実やカリキュラム強化に取り組むと聞いている。

一般質問

芦城公園と小松っ子ごちそうチケットと空き家



濵口（はまぐち） 淳也（じゅんや） 議員

一問一答

動画でチェック

◆ストック再編整備事業について

Q ストック再編整備事業として進める芦城公園の再整備について、花見や桜はどうなるのか。

A 来シーズンのお花見は、調査など大規模な掘削などが伴わないことから、安心して楽しんでいただける。桜の老木化対策においては、今回実施する樹木調査で生育状況を確認して、植え替えが必要な桜を順位づけし、長く花見ができるよう段階的な植え替えを実施したいと考えている。



Q 公園内のトイレ整備について。

A 新たなトイレ施設については、設置場所の見直しを行い、温水洗浄つきの洋式トイレを標準としたいと考えている。ただし、オストメイト対応トイレについては、未来型図書館のトイレ配置などを考慮し、配置計画を検討していく。

◆小松っ子ごちそうチケットについて

Q 登録時のデジタル手続の手間に関する不満が多く、途中で諦めた家庭も少なくない。今後については。

A まだまだ登録率、申請率が低く、予算に残りがあるので、現在10月末としている実施期限を、冬休みを含む1月末まで延長したいと思っている。まだ御利用いただいてない方にしっかりと御利用いただけるように期間も延長し、また周知徹底も図っていきたい。

◆空き家について

Q 市内の空き家総数は2,000件を超えている。空き家所有者に対する各種対策制度や成約率の高い空き家バンク（成約件数648件／累計登録件数722件）の周知徹底を。

A 来年度には、3年に一度行う第6回空き家実態調査を予定している。最新の空き家実態を把握するとともに、空き家所有者へ空き家バンクなどの各種制度を周知し、利用につなげていきたいと考えている。

災害対策・介護事業（ケアマネ）・地域公共交通計画



東（ひがし） 浩一（こういち） 議員

一問一答

動画でチェック

◆災害時避難施設、環境整備

Q 新たに創設する届出避難所とは。

A 町内会等から事前に市へ届け出てもらい、災害リスクの有無等の条件を満たす場合に登録する。発災時に市が避難者を把握できるメリットがある。

Q ドローンの飛行ルート、離着陸場は。

A 物資配送の既存飛行ルートは10ルートほどある。被災時は、飛行ルートの設定が無くても運用可能。

Q トイレカーの自治体保有について。

A 民間事業者のトイレカー活用を優先する。他自治体の動向を注視し、必要性を検討する。

◆介護支援専門員（ケアマネジャー）

Q ケアマネジャーの現状は。

A 本年6月調査では132名（特養・老健の入所施設従事者除く）。利用者数は3,421人で、ケアマネジャー1人当たり約26人。ケアマネジャーの高齢化が顕著で、将来的な人材確保が大きな課題。

Q シャドーワークへの対応は。

A ごみ出しや通院時の送迎など、ケアマネ業務の範囲を超えた法定外業務が過度な負担となっている現状を課題として認識している。ケアマネ業務を分かりやすくまとめたチラシの作成は、周知啓発に効果的と考える。事務負担の軽減を図り、ケアマネジメント業務に注力できる環境づくりに取り組む。

◆【誰もが、気兼ねなく、スマートに、お出かけできる　こまつ】での松東地区公共交通の取組について

Q 南部エリアの実証運行の状況は。

A 8月から運行エリアや時間帯を拡大し、予約対応を改善したことで、利用者数は2倍以上に増加した。利用状況や満足度、経費などを検証し、今後の継続や他地域での実証運行などを判断する。

Q 地域懇談会の開催、運行体制の見直しは。

A 松東地区の現状や課題を共有し、早い時期に開催する。乗合タクシーと乗合ライドシェアの併用など総合的に判断し、令和9年春からの運行内容の改善を検討している。具体的には、五国寺町・正蓮寺町への運行ルートの追加、運行時間や便数の見直し、交通結節点への接続などを検討している。

動画は QR コードからどうぞ